

ボッチャ競技会実施要項

1. 競技規則

本大会は「日本ボッチャ協会競技規則2017-2020 V.1」並びに本大会申し合わせ事項に基づいて行う。

2. 参加区分

立位と座位に分ける。ただし、障がい、男女、年齢の区分を問わない。

3. 服装

運動に適した服装とする。

4. 招集

(1) 招集は競技場内で行い、競技進行により放送で招集するので競技役員の指示に従う。

(2) 招集完了時間は、試合開始の10分前とする。

5. 入退場

競技場への入退場は、競技役員の誘導により行う。

6. 練習

受け付けを済ませた後、開会式の合図があるまではウォームアップコート内での練習を許可する。コートは当日指示する。

7. 競技方法

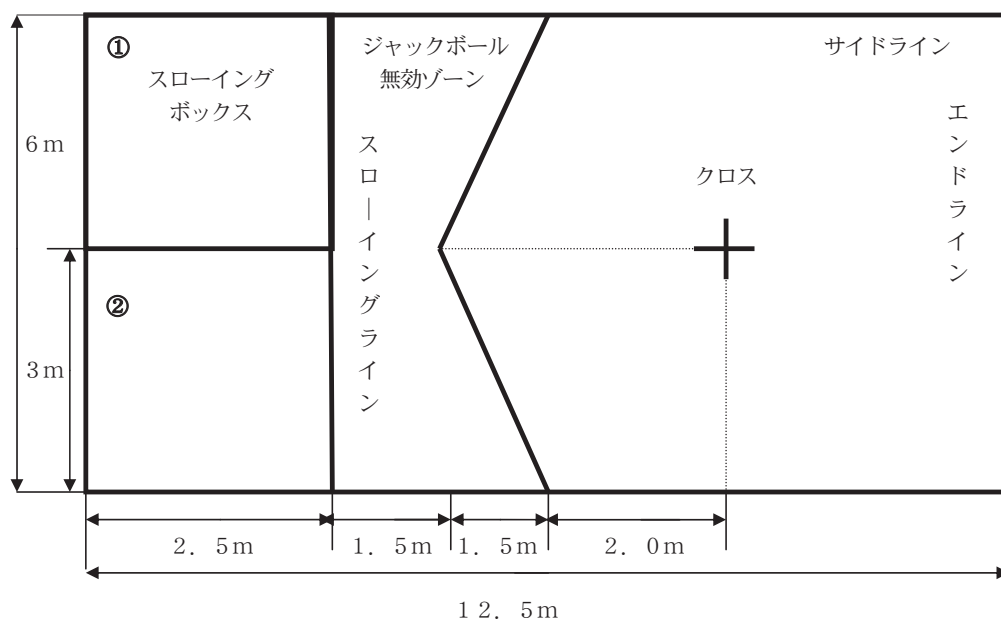
(1) チーム編成

1 チームの編成は、プレーヤー2名以上6名以内とする。

(2) コート

1 2.5m×6mのコートで行う。

選手は2.5m×3mスローイングボックス内でプレーする。



(3) 用具

① ボールは皮革製で周長直径 270 ± 8 mm、重さは 275 ± 12 gとし、主催者側で用意する。

② ジャックボール1球と赤・青のカラーボールそれぞれ6球の13球使用する。

③ ランプのサイズは支柱を含め最大にした状態でスローイングボックスに収まる範囲の大きさでなければならない。ランプ自体にボールを射出するような装置を取り付けたり、照準器を取り付けてはならない。

(4) 競技の流れ

① 赤・青チームをじゃんけんかコイントスなどで決める。

- ② チームごとに赤または青のスローイングボックスに入って投球する。自チームのスローイングボックス内であればどこから投げてもよいが、投球時に体やランプがスローイングラインを踏んではならない。
- ③ 先攻（赤チーム）・1番目の人がジャックボールを投げ、次に赤ボールをジャックボールに近づけるように1球投げる。
- ④ 後攻（青チーム）・1番目の人がジャックボールに近づけるように1球投げる。
- ⑤ ④以降、ジャックボールに遠いチームが審判の指示板に従って順番に投球する。
※自チームの指示板が出ている時は、チーム内でどこに投げるか相談するなどコミュニケーションを取ったり、コート内を見に行ってもかまわない。
- ⑥ ジャックボールから遠いチームの手持ちボールがなくなったら、ジャックボールに近いチームの手持ちボールがなくなるまで投げる。
- ⑦ 投球したボールが外に出た場合は、アウトボール（エンドが終了するまでコートの外に置く）となる。
- ⑧ ジャックボールが当てられて外に出た場合はクロスに戻される。
- ⑨ 赤・青両チームのすべての手持ちボールを投球し終わったら得点を数え、1エンドが終了となる。
- ⑩ 1エンドの得点の付け方
 - a. ジャックボールの一番近くにボールがあるチームが勝ちとなる。
 - b. ジャックボールの一番近くにある、負けたチームのボールまでの距離を半径として円を描く。その中に勝ったチームのボールが何個入っているかを数えて、その数を得点とする。
 - c. 赤・青共に同じ距離にあればそのボールの数を両チームの得点とする。
- ⑪ 2エンド目以降は、エンドごとに先攻・後攻を入れ替えて競技を行う。
- ⑫ 試合は4エンド行い、その合計得点により勝敗を決定する。得点合計が同点の場合はタイブレークを行う。再度先行後攻を決め、ジャックボールをクロスに置いて1エンドを戦う。その結果ジャックボールにより近いチームを勝ちとする。
- ⑬ 順位は、勝ち数 → 得失点差 → 総得点数の順で決める。

8. その他

※参考のため、申込時に以下の障がい区分表の区分番号をご記入ください。

		区分番号	障害区分		
身体障がい	肢体不自由	I	切断・機能障害		
		II	脳原性麻痺以外で車いす常用、使用	1	多肢切断・両下肢完全で立位
				2	第6頸髄まで残存
				3	第7頸髄まで残存
				4	第8頸髄まで残存
				5	多肢切断
		III	脳原性麻痺 (脳性麻痺、脳血管疾患、脳外傷等)	6	四肢麻痺で車いす常用
				7	けって移動
				8	片上下肢で車いす常用、または使用
				9	その他走不能
		IV		10	電動車いす常用
	V	I～IV以外	11		
	視覚障がい		12		
聴覚・平均機能障がい、音声・言語・そしゃく機能障がい		13			
知的障がい		14			
内部障がい		15			
精神障がい		16			